



だより



R6.10.16 Vol.23

ブラボー！真穴っ子！

さる10月9日、平野運動公園で、市内陸上記録会が開催されました。真穴っ子たち！応援席で、自己ベストが出たと喜んでいる子たちが多かったと、引率教師に聞きました。

詳しい結果は、後日、お知らせしますが、県陸上記録会への出場を決めた児童もおり、素晴らしい結果でした。子供の頑張りとは言わずもがなですが、やはり家庭の協力、地域性、社会体育での頑張り等、様々な要因が影響しての結果だと思っています。指導する教師には「我々教師は、来年度また、やり直しがきくけど、子供はその年一回きりの勝負だ。指導者としてやれることは全てやってくれ！」と伝えていました。子供と共に頑張ってくれた全ての人に感謝です！ブラボー！真穴っ子！

ある女の子との会話

高学年の女の子との会話です。職員の出張や外出の関係で私が陸上指導に出ることがありました。全体指示した後、運動の様子を見ていると、その子は、指示とは違うことをしていました。「あれ？ちがうよ！」と説明し直すと、「あー！そういうことか！分かりました！」と再び運動へ。「校長先生の指示、分かりにくかった？」と問うと「いえ！そんなことはないんですが…。」「うん？どっちやったの？」と言うと「…あのですね。指示が分かっていたという、じゃあなんでその指示通りにしないのか？と怒られるかもしれないでしょ？でも、指示が分からなかったと言ったら、校長先生の言い方が悪かったみたいで、校長先生になんか悪いじゃないですか…。」

優しく頭が回る子だなど思いました。分かっていたと言ったら怒られるかも…これはみんな思いつきますが、分からなかったと言ったら校長先生に悪いかも…瞬時に相手の気持ちに思いを馳せることができるのは、普段からそういう考え方が身につけている証拠かと。プチッと心が温まる時間でした。

四方山話真穴 ver. 其の二十三(馬鹿ばかり言われんで)

先日、平日ではあったのですが、24年前に受け持った子供たちから、「飲み会するので来てください。」と連絡があり、顔を出しました。6人ほど来ていましたが、その子たちもお互い久しぶりだったらしく、大いに思い出話に花が咲きました。身体は私より一回りも二回りも大きくなっており、どっちが子供かわかりません。(笑)アルコールが進むにつれ、話は核心に…。「あの頃は子供やったけん、先生のこと怖かったけど、もう今は怖くないし…。」「そーいや、〇〇されたよなあ…。」「俺は△△もされたてや…。」「俺が一番されたんやないかなあ…。」「先生！もちろん今日は無事に帰れると思っていよなあ？」「お、おう…」屈強な男たちに囲まれ…。

字面だけ見ると、校長！危機一髪！ですが、「馬鹿ばかり言われんで！」と笑い合いながらのひと時でした。「次集まるのは、先生の葬式の時やな。先生、いい写真撮っていいよ！」そんなブラックジョークも…。(私自身、身近な人の死に触れる中で、それが決して適切な表現ではないことは承知していますが…)その言葉の奥にある教え子たちの久しぶりに集まれた！恩師(一応…汗)とも再会できた！という喜び、次も絶対集まろうな！という楽しみ、言葉には表れないそんな気持ちを一番に感じるので、葬式と言われても「おう！その時は頼むぞ！」と馬鹿を言って終われます。

発された言葉の字面だけを追ったり、切り取ったりして相手を非難する。そんな空気が今の日本は蔓延しています。その同窓会でも話題になりましたが、「最近職場の後輩に冗談も言えれんけんなあ。」なんてことを言う教え子もいました。そんな息の詰まる雰囲気、何がいいんでしょう。会話はその人どうしの関係性によって成り立ち、前後の文脈で意味は様々に変化します。場合によっては我慢ならない美辞麗句もあれば、愛を感じる罵詈雑言もあるかもしれません。(決して罵詈雑言を肯定するのではなく。)

私たちは教員ですから、正しい言葉遣いの指導をします。が、「機微に触れる」という経験も大切にしたいなと思います。フーテンの寅さんの名台詞「よお！相変わらず馬鹿か？」愛しか感じません！(笑)